

碩 心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
 神奈川 碩 心 会 発行

元 年 5 月 現 在 会 員 数
 逗 子 地 区 1 6 7 名
 葉 山 地 区 2 7 2 名
 大 船 地 区 5 0 名
 (合 計) (4 8 9 名)

元 年 5 月 号 (2 0 2 号)
 発 行 者 萃 岳
 根 岸 岳 集 者
 編 村 愛 岳
 中 村 愛 岳

私と詩吟の歩み

松野宝岳

私が詩吟を始めたのは、昭和十二年、国民青年学校の時でした。立教大学を出た木田先生に、一週間に二時間、二年間、九月十日、川中島、訣別、九月十三夜、金州城等を習いました。

昭和十四年に召集で軍隊に入隊、中国大陸の南京、太平、蕪湖、庫山、灣止鎮等の前線陸地にて、祖国を眺めながら詩吟を吟じ、軍歌を歌い、心身の支えになりました。そして満州大陸に転出し、赤い夕日の沈む時、金州城を吟じた事は今でも心に残っております。

戦後黒田氏と共に、黒田氏宅で岡嶋先生の御指導を受け、一年程で先生の都合により解散、昭和四十二年、黒田氏と同じ職場の三井先生をお迎えして、沼間支部を結成して、現在迄詩吟の道を歩んで参りました。これ偏えに三井先生の良き御指導の賜であると深く感謝しております。今後身体の健康である限り、詩吟の道を歩んでゆきたいと思っております。

常任理事会ひらかる

とき・五月十六日(火)六時三十分より
 ところ・元町会館

(議事内容)

(一) 昭和六十三年度収支並びに、平成元年度予算について、会計部長より報告、提案があり承認された。

(二) 許証料に対する消費税の転嫁について

総本部の方針に基づいて、本年秋季審査に係る許証料より、消費税3%を外税として転嫁することとなった。なお、消費税の対象額は「資格決定申請手続費用(許証料の4%相当額+総本部納入額)の3%とし、金額は次の通り。

(段伝位)	(許証料)	(※)	(合計)
初段	2,000	24	2,024+700
二段	2,000	24	2,024+700
初三段	3,000	36	3,036+700
四段	3,000	36	3,036+700
中五段	5,000	60	5,060+700
五六段	5,000	60	5,060+700
奥七段	10,000	120	10,120+700
八段	10,000	120	10,120+700
九段	20,000	240	20,240+700
十段	20,000	240	20,240+700
総伝	30,000	360	30,360

(※は消費税)

又、少年少女の級位については六円、段位については一般の半額を消費税額とする。

㊦平成元年度の理事会は、六月一日(㊦)午後七時より桜山下会館で開催することとされた。

㊧審査料の改定について

本年秋季審査会より(碩心会にて行う審査)審査料を九〇〇円に改定する。(改定前七〇〇円)なお、少年少女、高令者は据置き(五〇〇円)とする。

㊨神・静地区青少年吟道大会について

日時・八月十三日(㊨)午前十時開会
会場・鎌倉市勤労福祉会館(JR大船駅)
当会の出吟割当

。第一部 ㊨幼年・小学生・中学生
(独吟一題)

。第二部 ㊨義務教育終了後四十才まで
(独吟又は合吟(五名以上)一題)

。第三部 ㊨賛成として、年令制限なし
(合吟一題)

◇第三部の出吟は葉山地区(男子)より出吟、地区長とりまとめ、六月十日総務部迄。

㊩その他

教本「愛吟集」及び64年度(平成元年度)審査課題テキスト(発行済のもの)の頒布を教務部で取扱い。総務部・加藤記

企画部の業務内容

企画部長 千葉香岳

諸先生方並びに、会員の皆様のご協力を頂きまして、企画部担当の行事も、大禍なく遂行できましたこと、心から感謝しております。

碩心会の年間行事としては、概ね左の三行事になります。

(一) 初吟会及び新年会

1. 毎年一月の第二か第三の休日を選んで、その半年前に会場申し込みをします。
2. 三支部か四支部を一つのブロックとして、当日のお世話をお願いすることになっております。
3. 当日は午前中は初吟会、午後は会員の皆様の演奏会を行っております。

(二) 温習会

1. 毎年六月の日曜日当てることになっております。
2. 当日は、会員の皆さんの日頃の錬成ぶりを、独吟又は合吟にて発表して頂くのが目的です。
3. 三月の審査に合格された方の許証が授与されます。
4. 五人制合吟コンクールを実施致します。

(三) 地区温習会

1. 葉山地区、逗子地区、大船地区が主管して、交替で毎年十一月か、十二月初めに開催されます。
2. 九月の審査に合格された方の許証が授与されます。

以上

以上の三行事は、毎年開催されますが、その他に、三年又は四年に一回位の割合で、吟行会を計画致しております。最も近くに実施致しましたのは、六十年六月八日、九日(一泊二日)山形寒河江吟行会でしたので、そろそろ次回を計画したいと考えております。皆様も御希望の場所がありましたら、企画部へお寄せ下さい。

右四行事を企画部で取り扱っておりますが、今後共、会員の皆様のご協力を頂きたく、お願い申し上げます。

尚副部長綾部秋岳さんには何かと協力していただいております事を附記いたします。

稽古場風景

大船A 梅原 幸枝

先生から、月報誌に載せる随筆を書いてほしいと依頼されていた。正直いって、文才のない私が書かなくとも、博識の先輩がいるのに、恥はかきたくないと思った。が、

我が稽古場の先輩達は実に謙虚である。幾分年若いこの私に、譲ってあげると云うのである。そこで、日頃色々お世話になっている先生の顔を立ててと、一大発奮して書くことにしたが、なかなか題材が浮かんでこない。そこで、いつも笑いの絶えない楽しい稽古場を紹介させていただくことにした。

(山口夕岳先生)

ほんとうに頭の下がる師である。いつも向学心に燃えていて、人間一生が勉強という人であるが、その反面、細かいことも気配りして下さる。稽古場には、いつもお絞り、熱いお茶、冷たいお茶、飴、果物、茶菓子を用意され、自ら立ったり座ったりサービスである。又、とても誉め言葉のうまい人である。先生の口から出る言葉はいつも「ほんとうにみんなうまいねえ、どうしてこんなに早く上手になるのかしら」「ほんとにみんなのおかげ」である。人間いくつになっても、誉められて気持ち悪い人はいないと思う。特に、私の様な単細胞の人間は「よし！もっとうまくなってやろう」と思ってしまう。

(田中二三子さん)

実に温和な性格の人である。何事も控えめで、決して自分を前に出そうとしないが、

器用で、編物、鎌倉彫は天下一品である。

(水野みえさん)

なんとも愉快な人である。詩吟の本に自分流の言葉を加えて、堂々と朗詠してしまっている。その都度、本人はじめ、皆笑いをこらえてしまうのである。この人が、大病院で立派な看護婦さんとして、長い間活躍してこられたとは信じられない。ゴメンナサイ。体調の悪い時、家族の健康面で心配事がある時は、適切なアドバイスをしてくれて、家庭的存在で有り難い。

最後に本人の私であるが、少しばかりの若さと、健康、それに無類のお人好以外、なんの取り得もない人間である。

この様にして私達火曜日の稽古場は、古くから茶道の方と一緒に、気心が知れているせいか、先生と弟子とより、友達同志として、忌憚のない意見を出しあって、根岸先生のお言葉「和合団結」の精神で、小さいながら、太いパイプで結ばれ、いつも楽しい稽古が続いています。

旅の思い出(江南の春)

岩崎恵岳

折も折、十和田は桜と芽吹きの真只中で、まるで絵巻物を見る様な、素晴らしい眺め

であった。

宿に荷物を置き、夕食までの時間を、十和田神社乙女の像等を巡り、ひたひたと夕波寄せる湖畔を思い思いに散策した。

今回の旅は一寸した祝いの旅で、夕食も賑やかに、余興も盛り沢山で、いよいよ自分の番が来た。何をやるかと悩んでいて、ふと床の間をみると「江南の春」の立派な軸が掛けていた。この詩は詩吟入門したてに勉強した私の好きな詩だったので、しめた！と思い、早速吟じることにした。季もよし、静かな春雨の夜の一興として楽しい旅の思い出となった。

俳句・十和田の旅情

山口夕岳

師に従きてみちのくの旅遅桜

姫小松湖は千古の青嵐

乙女の像裸身恥じらふ新樹光

人の声濡れて落ちけり二輪草

みちのくの風香ぐはしきリラの花

岩崎恵岳

目借時南部片富士雲がくれ

白糸の滝のもつれは風が解く

湖囲む若葉絵巻を濡らす雨

風神の洞へ攻め込む苔の花

帰郷急ぐ淡き旅愁や花林檎

練吟
メモ 漢詩余滴

○「この人ほどの芝居上手はちよっといない」と評する劇作家や映画監督がいる。当の大竹しのぶは「掛け算というか、相手があつたことなので、緊張感が共演者にもスタッフにも伝わって、それが最高の時にフアッと本番に入るとりまぐしくみたい」あどけなくたゆたうように言葉をつなぐ。

○右は某大新聞夕刊一面の連載読み物。この文中・点の語をどう読み取りますか。な。辞典をひくと、たゆたふが音便でたゆたうになり、発音はたゆとう（NHK）となっている。意味は（かなたこなたへゆらいで定まらない。ただよう）とある。短歌ではおなじみの言葉であるが、新聞用語としては希有。ついでながら、夏の短歌用語としてよく出るのにめぐりめぐりがある。これはめ・くるめぐで目がくらむこと。これらの雅語は一応記憶しておいていいと思う。○では詩吟の世界ではどうであろうか。初心者にも教本なしで理解していただけるよう二、三の詩句を引用してみたい。

◇岩崎谷の洞に題す（転句）
笑うわれ死に 向として仙客の如し
筆者はむかし「なんなんとして」でなく、

字のとおり「向つて」と学習した。そう読んだ方がびしっと胸に迫る。なんなんとする「垂んとする」は（もう少しでなろうとする）意で「なりなんとする」の音便。

◇赤馬が関を過ぐ（転句）

三十六難行くゆく尽きんと欲す
原文は「行」の一字で、書き下し文でなかつたら「行くゆく」とは読めない。「間もなく……なろう（ここでは尽きん）とする」意。簡単に「やがて」と訳してもいい。

◇絶句（転句）
今春看す又過ぐ

看の音はカン、訓はみるだけである。意味は、ながめる、見守る、よく見る、見舞う、もてなしなど。看をみすみすと読むのは、漢詩訓読上の便宜による。みすみすの意味は（みるみるうちに）ということ。

○右三例は、いずれも漢詩の訓読を「漢文口調」と言われる独特の調子とするための漢字の特異な読み方であつて、当初掲げた短歌をはじめ、俳句、新体詩等に使用される雅語とは相違するものである。因みに「春暁」の結句であるが「花落つること知んぬ多少ぞ」の知んぬはどうか。「知る多少」と読めば簡潔で結構だが「知りぬ」が音便で「知んぬ」になつたことを理解すれば、知んぬの方がよく思えるがどうか。

（正師範認許） 元年三月十二日付

8 加藤圭岳

（師範認許） 元年二月十九日付

28 矢嶋悦岳

（皆伝合格） 元年五月一日付

70 内山俊岳 71 沼田隆岳 73 須藤美岳

76 猪又房岳 77 飯田愛岳 78 井沢鈴岳

79 小峯紅岳 80 井上尚岳 81 鈴木清岳

82 田辺伯岳 83 矢島琴岳 84 長島玉岳

85 安田聰岳 86 三留岑岳 87 磯村朋岳

88 須藤星岳 89 矢島俊岳

（支部長変更）

大船A支部長村井清山退会に付山日夕岳に

（移籍）

356 小金智山 逗子Aより真澄支部へ

（入会）

533 大橋政子 横浜市栄区飯島町一九二一十

（大船A）（電）〇四五―八九―一二七二七

534 増島照子 横浜市小管ケ谷町一六四七

（大船A）（電）〇四五―八九―一四八五二

535 太田マツ枝 鎌倉市浄明寺二八七

（逗子B）（電）〇四六―七一―二三一〇九五四

536 中村かをる 逗子市池子二一九一―七三五

（銀詠）（電）〇四六―八一―七三一〇七八

（退会）

169 高橋城風（逗子A） 235 渡部俊風（平松）

387 阿部栄泉（一色A） 470 具志堅廣（吟甫）